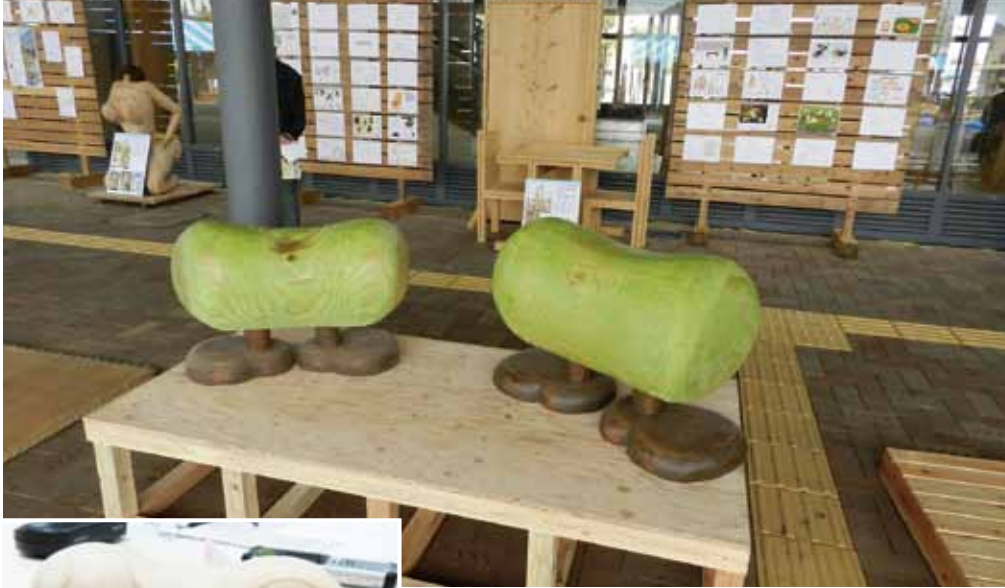


内田洋行賞 遠藤さん家のイス

宮崎県立日向工業高等学校建築科1年3人娘！
黒木栞・小川紀子・小田まりあ・宮崎県

今回、杉コレ初参加で「内田洋行賞」という立派な賞を受賞できてとても嬉しかったです。建築科に入学して杉コレの存在を知りました。テーマから3人で話しあった雑談が、1次審査を通してビックリした反面、最優秀賞を取るぞとやる気も出て3人で頑張りまし

た。杉コレを通して、杉の素晴らしさや利用価値など様々なことを知ることができ、貴重な経験となりました。これから建築について勉強してものづくりの大切さを感じながら来年は一番を狙って、最優秀賞を目標に楽しく頑張りたいと思います。



日向市駅横の広場には、長くて大きなベンチはあるけど、ちっちゃなイスがない。だから豆の形をした腰に優しく、疲れた人がちょっと一息つけるようなイスがあったらいいなと思い、提案しました。「えっ、これなに豆?? てか、えんどう豆!? これは、そら豆やかい!!」



コンフォルト賞 低スギあぐら椅子

東京理科大学大学院修士2年
高見沢仁志・原 章・神奈川県

昨年の西都に続き、2度目の杉コレです。前回の最終選考会では無垢の杉のやわらかい感触やぬくもりに触れ、それがたいへん印象に残りました。そこで今回は杉の優しさを体感できるものをと、座布団のような大きな座面を持つ椅子を考えました。公共の場であぐら座りは抵抗があるのか、なかなか座つてもらえず焦りましたが、是非にと勧めると皆さ

ん「座り心地いいね」と言ってくれたのが嬉しかったです。座面に凹曲面をつけるという無茶な注文をしましたが、制作担当のトリアさんにはちよつと想像もつかないようなワザで実現していただきました。ただただ感謝です。来年はさらにレベルアップしたものを考えて、また宮崎に戻ってきたいと思っています。



いつも高い椅子に座って過ごすオフィスのような場所に、床座の要素を取り入れたらきっと面白い。座面が広いこの低スギる椅子にあぐらをかいて座ると、目の高さはしゃがんだ時と同じになる。あぐらで会議、あぐらで休憩、あぐらで打ち合わせ...日本の未来を創る新しいアイデアも、あぐらから生まれるかもしれない。さあ座ってみましょうか!!



シーガイア・MOVE IT! : アワード作品

肩車

馬話設計工房 馬話 和明・馬話 菜央・宮崎県

あの肩車の感覚を、杉を使って表現できないだろうか：これが今回杉コレに応募したきっかけです。

座るために必要な椅子は、仕事や食事の時に座るものであり、機能性に重視したものを選びがちです。そんな中、幼い頃に体験したぬくもりの感じることのできる椅子が肩車のな

です。実際に作られた「肩車」は想像していた以上に杉本来のぬくもりが残されており、杉

のすばらしさを改めて実感しました。さらに、シーガイア賞というすばらしい賞もいただき、感謝しています。

最後に、製作にあたっていただいた、チェーソソアートの西元様、染川木工の皆様、ありがとうございました。

杉コレを通して、杉のすばらしさがさらに伝わることを願っております。



私たちが日常生活に求めるイスは、なんでしようか？仕事・食事・観覧、何かの目的に必要なイスです。肩車のイスは、座った時に感じる木のぬくもりはもちろんの事、心のぬくもり、誰も思いつきのある肩車、座ったと同時にタイムスリップ！座る人々の記憶のイス、心も休まるイスが、肩車です。さあ座ってみましょうか!!



日向市長賞 登る座

宮崎県立日向工業高等学校建築科2年 甲斐直樹・宮崎県

僕は、当日朝から、とても緊張していて、何度でもプレゼンテーションの練習をしていました。そして、大勢の人々やすぐく有名な審査員の方々の前でプレゼンは、やはり緊張したのですが、本番になると不思議と緊張よりも、少しでも自分の作品の良い所を知ってほしい。どうやったら分かりやすく伝わるのだろうかと思っている自分にビックリしました。

そして、結果発表の時には、惜しくもグラプリを取ることはできませんでしたが、わざわざ特別賞の市長賞を作ってもらい、その賞を受賞でき、とてもうれしく思っています。杉コレを通じ様々なことを学び成長できたと感じています。また来年も挑戦したいと思います。



ただ座るだけの目的の椅子ではなく、座ることが楽しくなる椅子。風や人の賑わいを感じられるシンボリックな椅子の提案です。幼少時代TVで観たラスカルの家。将来こんな家に住みたいと想い続けてきました。夢をカタチに・・・想い届け!

